

地域津波避難計画

《作成地区一覧》

No./項	地区名称	構成町丁目
1	藻津地区	藻津
2	宇須々木地区	宇須々木
3	樺, 新港地区	樺, 新港
4	西町・港南台地区	西町1～5丁目, 港南台1～2丁目
5	池島地区	池島
6	小深浦・大深浦・自由ヶ丘地区	小深浦, 大深浦, 自由ヶ丘
7	片島地区	片島
8	大島地区	大島
9	四季の丘・錦地区	四季の丘1～2丁目, 錦
10	高砂地区	高砂, 西片島
11	駅前・新田地区	駅前町1～2丁目, 宿毛新田
12	与市明・長田町・幸町・宿毛・貝塚地区	与市明, 長田町, 幸町, 宿毛, 貝塚
13	街地区	桜町, 萩原, 松田町, 中央1丁目～8丁目, 南沖須賀
14	高石・平井・二宮地区	二ノ宮高石, 二ノ宮平井, 二ノ宮二宮
15	和田地区	和田, 中角
16	坂ノ下地区	坂ノ下
17	田ノ浦地区	小筑紫町田ノ浦
18	内外ノ浦・呼崎地区	小筑紫町内外ノ浦, 小筑紫町呼崎
19	湊・大海地区	小筑紫町湊, 小筑紫町大海
20	伊与野地区	小筑紫町伊与野
21	小筑紫地区	小筑紫町小筑紫
22	福良・石原地区	小筑紫町福良, 小筑紫街石原
23	栄喜地区	小筑紫町栄喜
24	鶴来島地区	沖の島町鶴来島
25	沖の島地区	沖の島町母島, 沖の島町弘瀬

樺・新港地区 津波避難計画

1. 避難対象地域

地区名称	地区全体				避難対象地域		
	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	高齢者数 (人)	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)
樺	1039.15	30	71	20	180.01	28	67
新港	573.97	3	7	(秘匿)	497.43	3	7
合計	1613.12	33	78	20	677.44	31	74

※避難対象地域の世帯数及び人口は、対象地域に含まれる建物の面積比率を基に算出

2. 避難場所及び避難所の状況

地区名称	一次避難場所						長期避難場所	
	避難場所		避難ビル		合計		箇所数 (箇所)	収容人数 (人)
	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)		
樺	3	1100	0	0	3	1100	0	0
新港	2	210	0	0	2	210	0	0
合計	5	1310	0	0	5	1310	0	0

3. 最短津波浸水予測時間と最大浸水深

4. 危険箇所の存在

地区名称	浸水予測時間 (分)	最大浸水深 (m)	土石流危険 区域(箇所)	急傾斜地崩壊 危険箇所(箇所)	ため池 (箇所)
樺	28	13.21	11	10	1
新港	20	14.03	0	5	0
合計			11	15	1

5. 災害時要援護者施設及び保育施設・公立学校の立地状況

地区名称	種別	施設名	定員	浸水区分
樺	公立学校	咸陽小学校	195人	浸水
樺	保育園(公立)	咸陽保育園	130人	浸水
		合計	325人	

6. 地域の課題

- 当地区には33世帯、78人(うち高齢者20人)が居住しており、そのうち31世帯、74人が避難対象者となっている。
- 避難場所としては、裏山や神社等の屋外避難場所が5箇所指定されており、収容人数は1,310人と地区全員の収容が可能となっている。
- 新港地区には3世帯が暮らしているが、最短津波浸水予測時間は20分と短いため、迅速な避難に向けた日ごろからの訓練と津波に対する心構えが必要である。
- 樺地区は咸陽小学校周辺の浸水深が10mを超えており、より高いところへの避難を心がけるとともに、同地区には複数の土砂災害危険箇所が存在することから、土砂災害等の危険も踏まえて、避難場所や避難経路を検討する必要がある。
- また樺地区には、浸水想定区域内に小学校及び保育園があることから、避難方法や避難支援に関する事前の十分な仕組みづくりが必要である。

小深浦・大深浦・自由ヶ丘地区 津波避難計画

1. 避難対象地域

地区名称	地区全体				避難対象地域		
	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	高齢者数 (人)	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)
小深浦	1305.97	35	109	25	200.38	22	68
大深浦	2269.03	105	307	77	541.40	79	230
自由ヶ丘	84.92	121	312	43	8.79	0	0
合計	3659.91	261	728	145	750.57	101	298

※避難対象地域の世帯数及び人口は、対象地域に含まれる建物の面積比率を基に算出

2. 避難場所及び避難所の状況

地区名称	一次避難場所						長期避難場所	
	避難場所		避難ビル		合計		箇所数 (箇所)	収容人数 (人)
	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)		
小深浦	9	2250	0	0	9	2250	0	0
大深浦	6	1150	0	0	6	1150	0	0
自由ヶ丘	2	7500	0	0	2	7500	0	0
合計	17	10900	0	0	17	10900	0	0

3. 最短津波浸水予測時間と最大浸水深

4. 危険箇所の存在

地区名称	浸水予測時間 (分)	最大浸水深 (m)	土石流危険 区域(箇所)	急傾斜地崩壊 危険箇所(箇所)	ため池 (箇所)
小深浦	28	11.8	0	8	2
大深浦	19	12	23	31	2
自由ヶ丘	-	10.23	0	0	0
合計			23	39	4

5. 災害時要援護者施設及び保育施設・公立学校の立地状況

地区名称	種別	施設名	定員	浸水区分
大深浦	有料老人ホーム	有料老人ホームたんぽぽおぶかうら	8人	—
合計			8人	

6. 地域の課題

- 当地区には261世帯、728人(うち高齢者145人)が居住しており、そのうち101世帯、298人が避難対象者となっている。
- 避難場所としては、山や畑等の屋外避難場所が14箇所指定されており、収容人数は10,900人と地区全員の収容が可能となっている
- 自由ヶ丘地区では浸水想定区域に家屋が含まれていないが、小深浦、大深浦では山地に沿って細長く伸びた居住区の大半が浸水想定区域に含まれており、津波からの避難に向けた日頃からの十分な準備が必要である。
- 小深浦、大深浦地区には複数の土砂災害危険箇所が存在し、その一部は避難場所や避難経路にかかっていることから、土砂災害等の危険も踏まえて、避難場所や避難経路を検討する必要がある。
- また、避難経路の整備が十分でない箇所も想定され、懐中電灯や動きやすい靴等、避難時の安全確保に向けた事前の準備が必要である。

片島地区 津波避難計画

1. 避難対象地域

地区名称	地区全体				避難対象地域		
	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	高齢者数 (人)	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)
片島	617.52	586	1311	401	445.83	557	1245
合計	617.52	586	1311	401	445.83	557	1245

※避難対象地域の世帯数及び人口は、対象地域に含まれる建物の面積比率を基に算出

2. 避難場所及び避難所の状況

地区名称	一次避難場所						長期避難場所	
	避難場所		避難ビル		合計		箇所数 (箇所)	収容人数 (人)
	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)		
片島	10	4400	0	0	10	4400	0	0
					0	0		
					0	0		
					0	0		
合計	10	4400	0	0	10	4400	0	0

3. 最短津波浸水予測時間と最大浸水深

4. 危険箇所の存在

地区名称	浸水予測時間 (分)	最大浸水深 (m)	土石流危険 区域(箇所)	急傾斜地崩壊 危険箇所(箇所)	ため池 (箇所)
片島	19	14.63	0	12	0
合計			0	12	0

5. 災害時要援護者施設及び保育施設・公立学校の立地状況

地区名称	種別	施設名	定員	浸水区分
片島	有料老人ホーム	有料老人ホームさくら苑	20人	浸水
片島	公立学校	大島小学校	119人	浸水
片島	公立学校	片島中学校	158人	浸水
片島	保育園(私立)	大島保育園	80人	浸水
合計			377人	

6. 地域の課題

- 当地区には586世帯、1,311人(うち高齢者401人)が居住しており、そのうち557世帯、1,245人が避難対象者となっている。
- 避難場所としては、裏山や団地等の屋外避難場所が10箇所指定されており、収容人数は4,400人と地区全員の収容が可能となっている。
- 当地区では沿岸部に多くの家屋が存在しており、最短浸水予測時間が19分と短いため、迅速な避難に向けた日ごろからの訓練と津波に対する心構えが必要である。
- また、当地区には土砂災害危険箇所が多数存在しており、その一部は避難場所や避難経路、さらに住居にかかっていることから、土砂災害等の危険も踏まえて、避難方法や避難経路を検討する必要がある。
- 当地区では、裏山が避難場所に指定されている場合が多く、避難経路の整備が十分でない箇所も想定されるため、懐中電灯や動きやすい靴等、避難時の安全確保に向けた事前の準備が必要である。
- 当地区には浸水想定区域内に4軒の福祉施設・小中学校・保育園が存在しており、児童や災害時要援護者の避難方法や避難支援に関する事前の十分な仕組みづくりが必要である。

大島地区 津波避難計画

1. 避難対象地域

地区名称	地区全体				避難対象地域		
	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	高齢者数 (人)	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)
大島	1029.05	241	575	229	354.45	224	535
合計	1029.05	241	575	229	354.45	224	535

※避難対象地域の世帯数及び人口は、対象地域に含まれる建物の面積比率を基に算出

2. 避難場所及び避難所の状況

地区名称	一次避難場所						長期避難場所	
	避難場所		避難ビル		合計		箇所数 (箇所)	収容人数 (人)
	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)		
大島	8	3360	0	0	8	3360	0	0
合計	8	3360	0	0	8	3360	0	0

3. 最短津波浸水予測時間と最大浸水深

4. 危険箇所の存在

地区名称	浸水予測時間 (分)	最大浸水深 (m)	土石流危険 区域(箇所)	急傾斜地崩壊 危険箇所(箇所)	ため池 (箇所)
大島	18	13.86	25	21	0
合計			25	21	0

5. 災害時要援護者施設及び保育施設・公立学校の立地状況

地区名称	種別	施設名	定員	浸水区分
合計				

6. 地域の課題

- 当地区には241世帯、575人(うち高齢者229人)が居住しており、そのうち224世帯、535人が避難対象者となっている。
- 避難場所としては、神社や墓地等の屋外避難場所が8箇所指定されており、収容人数は3,360人と地区全員の収容が可能となっている。
- 当地区では沿岸部に多くの家屋があり、最短浸水予測時間が18分と短いため、迅速な避難に向けた日ごろからの訓練と津波に対する心構えが必要である。
- また、当地区には土砂災害危険箇所が多数存在しており、その一部は避難場所や避難経路、さらに住居にかかっていることから、土砂災害等の危険も踏まえて、避難方法や避難経路を検討する必要がある。
- 当地区は高齢化率が約4割と高い地域であるため、高齢者への避難支援の体制づくりが必要である。
- また、当地区には国民宿舎が存在し、観光シーズンには多くの観光客の来訪が想定されることから、住民の避難に加えて、観光客の避難も考慮に入れた避難計画を検討する必要がある。

与市明・長田町・幸町・宿毛・貝塚地区 津波避難計画

1. 避難対象地域

地区名称	地区全体				避難対象地域		
	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	高齢者数 (人)	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)
与市明	237.36	147	328	111	109.65	123	276
長田町	77.96	109	189	54	75.75	109	189
幸町	131.48	152	370	94	131.48	152	370
宿毛	673.60	21	59	2	109.26	19	53
貝塚	504.96	269	727	164	107.78	151	407
合計	1625.35	698	1673	425	533.92	554	1295

※避難対象地域の世帯数及び人口は、対象地域に含まれる建物の面積比率を基に算出

2. 避難場所及び避難所の状況

地区名称	一次避難場所						長期避難場所	
	避難場所		避難ビル		合計		箇所数 (箇所)	収容人数 (人)
	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)		
与市明	0	0	1	1480	1	1480	0	0
長田町	0	0	1	100	1	100	0	0
幸町	0	0	5	846	5	846	0	0
宿毛	2	600	1	44	3	644	0	0
貝塚	2	900	1	135	3	1035	4	91
合計	4	1500	9	2605	13	4105	4	91

3. 最短津波浸水予測時間と最大浸水深

4. 危険箇所の存在

地区名称	浸水予測時間 (分)	最大浸水深 (m)	土石流危険 区域(箇所)	急傾斜地崩壊 危険箇所(箇所)	ため池 (箇所)
与市明	35	8.08	19	17	0
長田町	32	8.84	0	0	0
幸町	31	8.73	0	0	0
宿毛	33	8.81	3	11	0
貝塚	30	8.56	8	10	0
合計			30	38	0

5. 災害時要援護者施設及び保育施設・公立学校の立地状況

地区名称	種別	施設名	定員	浸水区分
与市明	公立学校	高知県立宿毛高等学校	376人	浸水
宿毛	グループホーム	グループホームこすもす	18人	浸水
宿毛	有料老人ホーム	有料老人ホームひまわり	10人	浸水
貝塚	福祉施設	宿毛授産園	40人	—
貝塚	福祉施設	宿毛育成園	40人	—
貝塚	福祉施設	障害者支援施設ピアハウスすくも	30人	—
貝塚	保育園(公立)	中央保育園	130人	浸水
		合計	644人	

6. 地域の課題

- 当地区には698世帯、1,673人(うち高齢者425人)が居住しており、そのうち554世帯、1,295人が避難対象者となっている。
- 避難場所としては、宿毛と貝塚地区に神社や交差点などの屋外避難場所が3箇所、またその他地域も含め委計9箇所の避難ビルが設定されており、収容人数は4,105人と地区全員の収容が可能となっている。
- 与市明・宿毛・貝塚地区には土砂災害危険箇所が広く分布しており、さらに住居にかかっている部分もあることから、土砂災害等の危険も踏まえて、避難方法・避難経路を検討する必要がある。
- 避難先として避難ビルを中心に避難を行う事が予想されるため、日曜・祝日や夜間における避難場所の利用方法について、ルールづくりと住民への周知が必要である。
- 与市明・宿毛・貝塚地区には浸水想定区域内に4軒の福祉施設が存在しており、災害時要援護者の避難方法や避難支援に関する事前の十分な仕組みづくりが必要である。

街地区 津波避難計画

1. 避難対象地域

地区名称	地区全体				避難対象地域		
	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	高齢者数 (人)	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)
桜町	123.09	104	218	91	89.00	101	211
萩原	93.70	166	338	106	71.57	161	328
松田町	138.48	124	244	74	12.73	32	63
中央1～8丁目	701.73	815	1810	602	507.78	814	1808
南沖須賀	31.52	18	44	11	31.52	18	44
合計	1088.52	1227	2654	884	712.60	1126	2454

※避難対象地域の世帯数及び人口は、対象地域に含まれる建物の面積比率を基に算出

2. 避難場所及び避難所の状況

地区名称	一次避難場所						長期避難場所	
	避難場所		避難ビル		合計		箇所数 (箇所)	収容人数 (人)
	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)		
桜町	4	2560	1	935	5	3495	0	0
萩原	1	200	1	61	2	261	0	0
松田町	2	1300	0	0	2	1300	0	0
中央1～8丁目	1	200	2	1855	3	2055	0	0
南沖須賀	0	0	1	420	1	420	0	0
合計	8	4260	5	3271	13	7531	0	0

3. 最短津波浸水予測時間と最大浸水深

4. 危険箇所の存在

地区名称	浸水予測時間 (分)	最大浸水深 (m)	土石流危険 区域(箇所)	急傾斜地崩壊 危険箇所(箇所)	ため池 (箇所)
桜町	36	7.45	5	9	0
萩原	35	8.34	0	1	0
松田町	39	6.02	2	7	0
中央1～8丁目	31	8.74	0	1	0
南沖須賀	32	8.23	0	0	0
合計			7	18	0

5. 災害時要援護者施設及び保育施設・公立学校の立地状況

地区名称	種別	施設名	定員	浸水区分
桜町	公立学校	宿毛小学校	356人	浸水
桜町	公立学校	宿毛中学校	263人	浸水
中央2丁目	保育園(私立)	宿毛保育園	150人	浸水
中央8丁目	介護療養型医療施設	大井田病院	40人	浸水
		合計	809人	

6. 地域の課題

- 当地区には1,227世帯、2,654人(うち高齢者884人)が居住しており、そのうち1,126世帯、2,454人が避難対象者となっている。
- 避難場所としては、天満宮や墓地等の屋外避難場所が8箇所と避難ビルが5箇所指定されており、収容人数は7,531人と地区全員の収容が可能となっている。
- 当地区の最短津波浸水予測時間はいずれも30分以上と津波到来までには比較的時間があるものの、浸水想定区域が広く、避難に時間を要するため、迅速な避難に向けた日ごろからの訓練と津波に対する心構えが必要である。
- 当地区では、多くの方が避難ビルに避難することが想定されるため、日曜・祝日や夜間における避難場所の利用方法について、ルールづくりと住民への周知が必要である。
- 当地区には浸水想定区域内に保育園、小中学校、病院が4軒存在しており、児童や災害時要援護者の避難方法や避難支援に関する事前の十分な仕組みづくりが必要である。
- また当地区は宿毛市の中心部であり、多くのビジネス客の来訪が予想されることから、住民の避難に加えて、他地域からの来訪者の避難も考慮に入れた避難計画を検討する必要がある。

高石・平井・二宮地区 津波避難計画

1. 避難対象地域

地区名称	地区全体				避難対象地域		
	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	高齢者数 (人)	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)
二ノ宮高石	5941.98	37	91	32	120.36	0	0
二ノ宮平井	227.61	32	79	16	55.84	19	46
二ノ宮二宮	4206.91	135	365	135	377.59	50	135
合計	10376.50	204	535	183	553.79	69	181

※避難対象地域の世帯数及び人口は、対象地域に含まれる建物の面積比率を基に算出

2. 避難場所及び避難所の状況

地区名称	一次避難場所						長期避難場所	
	避難場所		避難ビル		合計		箇所数 (箇所)	収容人数 (人)
	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)		
二ノ宮高石	1	200	0	0	1	200	0	0
二ノ宮平井	1	500	0	0	1	500	0	0
二ノ宮二宮	6	1710	0	0	6	1710	0	0
合計	8	2410	0	0	8	2410	0	0

3. 最短津波浸水予測時間と最大浸水深

4. 危険箇所の存在

地区名称	浸水予測時間 (分)	最大浸水深 (m)	土石流危険 区域(箇所)	急傾斜地崩壊 危険箇所(箇所)	ため池 (箇所)
二ノ宮高石	-	5.32	12	13	0
二ノ宮平井	45	5.83	2	2	0
二ノ宮二宮	47	7.39	7	9	0
合計			21	24	0

5. 災害時要援護者施設及び保育施設・公立学校の立地状況

地区名称	種別	施設名	定員	浸水区分
二ノ宮二宮	グループホーム	グループホーム宿毛の里	18人	浸水
二ノ宮二宮	有料老人ホーム	有料老人ホームすくも	17人	浸水
二ノ宮二宮	保育園(公立)	二ノ宮保育園	45人	浸水
合計			80人	

6. 地域の課題

- 当地区には204世帯、535人(うち高齢者183人)が居住しており、そのうち69世帯、181人が避難対象者となっている。
- 避難場所としては、二宮地区に神社等の屋外避難場所が8箇所指定されており、収容人数は2,410人と地区全員の収容が可能となっている。
- 平井地区では19世帯が浸水想定区域内に含まれているが、二宮地区の避難場所への避難経路には橋がかかっているため、落橋等に備えて宿毛金毘羅山地区への避難も検討しておく必要がある。
- また、平井、二宮地区には土砂災害危険箇所が多数存在しており、その一部は避難場所や避難経路、さらに住居にかかっていることから、土砂災害等の危険も踏まえて、避難方法や避難経路を検討する必要がある。
- また、避難経路の整備が十分でない箇所も想定され、懐中電灯や動きやすい靴等、避難時の安全確保に向けた事前の準備が必要である。
- 二宮地区には浸水想定区域内に3軒の福祉施設・保育施設が存在しており、園児や災害時要援護者の避難方法や避難支援に関する事前の十分な仕組みづくりが必要である。

田ノ浦地区 津波避難計画

1. 避難対象地域

地区名称	地区全体				避難対象地域		
	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	高齢者数 (人)	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)
小筑紫町田ノ浦	9301.08	138	358	90	430.84	116	301
合計	9301.08	138	358	90	430.84	116	301

※避難対象地域の世帯数及び人口は、対象地域に含まれる建物の面積比率を基に算出

2. 避難場所及び避難所の状況

地区名称	一次避難場所						長期避難場所	
	避難場所		避難ビル		合計		箇所数 (箇所)	収容人数 (人)
	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)		
小筑紫町田ノ浦	9	2560	0	0	9	2560	1	177
合計	9	2560	0	0	9	2560	1	177

3. 最短津波浸水予測時間と最大浸水深

4. 危険箇所の存在

地区名称	浸水予測時間 (分)	最大浸水深 (m)	土石流危険 区域(箇所)	急傾斜地崩壊 危険箇所(箇所)	ため池 (箇所)
小筑紫町田ノ浦	19	11.57	19	15	1
合計			19	15	1

5. 災害時要援護者施設及び保育施設・公立学校の立地状況

地区名称	種別	施設名	定員	浸水区分
小筑紫町田ノ浦	保育園(公立)	みなみ保育園	20人	—
合計			20人	

6. 地域の課題

- 当地区には138世帯、358人(うち高齢者90人)が居住しており、そのうち116世帯、301人が避難対象者となっている。
- 避難場所としては、山や神社等の屋外避難場所が9箇所設定されており、収容人数は2,560人と地区全員の収容が可能となっている。
- 当地区は最短浸水予測時間が19分と短く、浸水区域が広いことから、避難行動に時間を要する事が想定されるため、迅速な避難に向けた日ごろからの訓練と津波に対する心構え・避難経路の選定が必要である。
- また土砂災害危険箇所が多く分布しており、さらに住居や避難場所へのルートにかかっている部分も多いことから、土砂災害等の危険も踏まえて、避難方法・避難経路を検討する必要がある。
- 避難経路の整備が十分でない箇所も想定され、懐中電灯や動きやすい靴等、避難時の安全確保に向けた事前の準備が必要である。

小筑紫地区 津波避難計画

1. 避難対象地域

地区名称	地区全体				避難対象地域		
	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	高齢者数 (人)	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)
小筑紫町小筑紫	448.38	169	389	137	193.91	167	385
合計	448.38	169	389	137	193.91	167	385

※避難対象地域の世帯数及び人口は、対象地域に含まれる建物の面積比率を基に算出

2. 避難場所及び避難所の状況

地区名称	一次避難場所						長期避難場所	
	避難場所		避難ビル		合計		箇所数 (箇所)	収容人数 (人)
	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)		
小筑紫町小筑紫	10	850	0	0	10	850	0	0
合計	10	850	0	0	10	850	0	0

3. 最短津波浸水予測時間と最大浸水深

4. 危険箇所の存在

地区名称	浸水予測時間 (分)	最大浸水深 (m)	土石流危険 区域(箇所)	急傾斜地崩壊 危険箇所(箇所)	ため池 (箇所)
小筑紫町小筑紫	17	16.6	26	24	0
合計			26	24	0

5. 災害時要援護者施設及び保育施設・公立学校の立地状況

地区名称	種別	施設名	定員	浸水区分
小筑紫町小筑紫	公立学校	小筑紫小学校	88人	浸水
小筑紫町小筑紫	公立学校	小筑紫中学校	39人	浸水
小筑紫町小筑紫	保育園(公立)	小筑紫保育園	70人	浸水
		合計	197人	

6. 地域の課題

- 当地区には169世帯、389人(うち高齢者137人)が居住しており、そのうち167世帯、385人が避難対象者となっている。
- 避難場所としては、山や墓地等の屋外避難場所が10箇所設定されており、収容人数は850人と地区全員の収容が可能となっている。
- 当地区では居住区が沿岸部に集中しており、最短浸水予測時間が17分、最大浸水深が17mと津波被害を受けやすい地区であることから、迅速な避難に向けた日ごろからの訓練と津波に対する心構えが必要である。また沿岸部の高台と内陸部の山などの間で避難場所の選択が可能であるため、迷う事なく避難行動を行うためにもあらかじめ避難場所、避難経路を決定しておく必要がある。
- また土砂災害危険箇所が多く分布しており、さらに住居にかかっている部分も多いことから、土砂災害等の危険も踏まえて、避難方法・避難経路を検討する必要がある。
- 避難経路の整備が十分でない箇所も想定され、懐中電灯や動きやすい靴等、避難時の安全確保に向けた事前の準備が必要である。
- 浸水想定区域内に3軒の学校・保育園が存在しており、児童や災害弱者の避難方法や避難支援に関する事前の十分な仕組みづくりが必要である。

鵜来島地区 津波避難計画

1. 避難対象地域

地区名称	地区全体				避難対象地域		
	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	高齢者数 (人)	面積 (千㎡)	世帯数 (世帯)	人口 (人)
沖の島町鵜来島	1311.34	18	28	23	138.52	11	17
合計	1311.34	18	28	23	138.52	11	17

※避難対象地域の世帯数及び人口は、対象地域に含まれる建物の面積比率を基に算出

2. 避難場所及び避難所の状況

地区名称	一次避難場所						長期避難場所	
	避難場所		避難ビル		合計		箇所数 (箇所)	収容人数 (人)
	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)	箇所数 (箇所)	収容人数 (人)		
沖の島町鵜来島	2	100	0	0	2	100	0	0
合計	2	100	0	0	2	100	0	0

3. 最短津波浸水予測時間と最大浸水深

4. 危険箇所の存在

地区名称	浸水予測時間 (分)	最大浸水深 (m)	土石流危険 区域(箇所)	急傾斜地崩壊 危険箇所(箇所)	ため池 (箇所)
沖の島町鵜来島	9	13.43	2	4	0
合計			2	4	0

5. 災害時要援護者施設及び保育施設・公立学校の立地状況

地区名称	種別	施設名	定員	浸水区分
合計				

6. 地域の課題

- 当地区には18世帯、28人(うち高齢者23人)が居住しており、そのうち11世帯、17人が避難対象者となっている。
- 避難場所としては、寺院、神社の2箇所が屋外避難場所として指定されており、収容人数は100人と地区全員の収容が可能となっている。
- 当地区では沿岸部に家屋が集中しており、最短浸水予測時間が9分と非常に短い、浸水想定区域が沿岸部に限られていることや、比較的避難はしやすい地形となっていることから、あきらめることなく、迅速な避難に向けた日ごろからの訓練と津波に対する心構えが必要である。
- また、当地区では居住区の大半が土砂災害危険箇所となっていることから、土砂災害等の危険も踏まえて、避難方法や避難経路を検討する必要がある。
- 当地区は高齢化率が約8割と非常に高い地域であるため、高齢者への避難支援の体制づくりが必要である。
- また、当地区にはマリレジャーや釣りを目的とした多くの観光客が訪れるため、住民の避難に加えて、観光客の避難も考慮に入れた避難計画を検討する必要がある。

